

最高の仲間と共に 第77回卒業証書授与式



濁川中だより

令和6年
3月15日
第12号

式辞

まるで別れの春の到来を拒むかのように、春雪の舞う日々が続いていますが、学校の中庭の木々には、新たな芽が、次への準備を進めています。

本日、PTA 会長 富樫 貫様、学校運営協議会会長 赤間松次様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、第七七回新潟市立濁川中学校卒業証書授与式を挙行できますことを、心より御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。三年間の中学校生活を終え、卒業証書を受け取る皆さん一人一人の姿に、三年前の入学式の姿を重ねることで、この三年間という時間の重みを改めて感じています。特に最高学年としてのこの一年は、皆さんにとってはもちろん、濁川中学校にとっても新たな一歩を踏み出す大きな一年となりました。

体育祭では、今年度の生徒会スローガン「making new 濁中一人一人がプロデューサー」のもと、競技種目を一から創り直し、まさに新たな濁川中学校の一ページを開いてくれました。しかし、私が皆さんの成長を実感したのは、当日以上にその直前の出来事でした。新しい体育祭づくりの一つであった学級対抗リレー。徒競走に代えての新たな提案でしたが、歴史的猛暑で、練習の時から体調不良を訴える人が続出しました。その状況から、私は学級対抗リレーの中止を決断させてもらいました。しかし、三年生からどうしても走る競技を実施という訴えが起き、生徒実行委員会であらゆる方法を検討しましたが、最終的には私の決断を実行委員の皆さんに直接伝えることになりました。体育祭前々日の朝、私が部屋に入る時の三年生実行委員の凜とした姿と眼差し。今でも鮮明に覚えています。そして話の中で「納得はできないかもしれないが、理解をしてほしい」と言ったときの私を見る目、一点を見つめる目、うなずく目。表情や思いに違ひこそあれ、それぞれが意思をもった目であり、私は張り詰めた空気の中で見せた三年生の眼差しから、最高学年としてのたのしみを感じました。何より、自ら「こうしたい」という思いを表出し、行動を起こしたこと、それは過去にない皆さんの姿であり、皆さんの成長を大きく実感した日でもありました。

その実感が確信に変わったのが、合唱祭です。三年前の合唱コンクールが終わった後、皆さんの二年後の姿にやや不安を感じたものでした。それは、小学校最後の六年生から「声」だけでなく「表情」までもマスクの下に制限された皆さんにとって、合唱は難しいテーマだと感じていたからです。しかし、最初の学年合唱を聞いて、とめどもなく自然と涙が溢れてきました。それは、すごい、とか、うまい、という言葉で表現できる感情ではなく、あえて言うなら心が震えた感覚、心が震えると涙が流れる、という感覚を皆さんによって経験させてもらいました。聞き終えた後のあの清涼感は、まるでステージの上に描かれていた虹が、一瞬、本物に感じるような素敵なお時間でした。

そしてウェルカム参観日。この日はある意味、これまで皆さんと一緒に取り組んできた地域との結びつきによる学びの集大成でもありました。避難訓練で自治会の皆さんと一緒に避難したり、これまでの新崎駅前花植えボランティアだけでなく、地域の防災活動等にボランティアとして幾度となくかかわったりして、地域との結びつきを強めたのは、皆さんが二年生の時に始まった取組です。

今年度も地域運動会の企画にかかわらせてもらい、当日も寒い中、三年生を中心に多くの生徒が運営のボランティアに笑顔で参加してくれました。そして迎えた参観日。総合学習で地域の方々と一緒に取り組んできた成果を発表したあとの全体会で、学校運営協議会委員であり新崎自治会長 様からいただいた、思いの込められた言葉。

「あなたたち そのものが 地域の宝である」。
この一言だけでも、皆さんが取り組んできたことが、学校だけではなく、地域の方々にも感動を与えた証です。

これからは本当に予測が難しい時代です。ICTという言葉さえすでに古く感じるような最近の生成 AI の波及は、皆さんが入学した二年前、ほとんどの人が想像できなかったことだと思います。そして、皆さんが高校を卒業する三年後の社会も、今ここにいる誰一人正確に予測することはできないと思います。つまり、これからは今までの人類の知識が使えない時代、正解のない時代、そして新たな価値を創り出していかなければならない時代が、目の前に広がっています。

その困難な時代を生きていく皆さんに伝えたいことは一つ。それは自分を信じ愛してほしい、ということです。皆さんは、歴史的にみても稀なコロナ禍の困難を、笑顔を忘れずに乗り越えた経験をもっています。乗り越えるだけでなく、今、話をさせてもらったように、この一年だけでも多くの人に感動を与え、たくさんの輝く足跡を残した実績をもっています。皆さんには皆さんにしかないそれぞれの力を、可能性をもっているという証です。三年間の経験と実績を自信に変え、自分を信じ、大切にし、愛してほしい。自分を愛することで、初めて、相手を、他者を尊重する心 理性が育まれます。そして多様性を認めることで視野が広がり、自分が磨かれ、新たな価値を創造できる感性が高まり、学びを通して得られた知性を生かすことができます。

「自分を育むのは難しい。
自分を枯らすのは簡単だ。
あなたを導くのは
ほかでもない あなた自身
あなたは あなた自身を超えていく
自分を発見し続けることで
自分を大切にみつめてもらいたい
今日も 明日も いつまでも」

詩人 谷川俊太郎さんの「自分を育む」という詩の一部です。

私の大切にしているこの詩を、旅立ちを祝うメッセージとして皆さんに贈ります。

ご来賓の皆様、本日は卒業生の門出を見送っていただき、ありがとうございます。また、常に生徒たちを見守っていただき、感謝申し上げます。

「地域を舞台として学びの実感を育み、地域に貢献する」。地域の皆様からたくさんのご協力を得ながら、卒業生ともに取り組んできました。今ここにいる卒業生一人一人の姿が、その実りの姿であると、教職員一同、心より感謝申し上げます。これからも変わらぬご指導、ご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、おめでとうございます。ただいまお伝えしたように、生徒たちは学校でも素晴らしい成長の姿をたくさん見せてくれました。三年間、教育活動にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。これからは地域のよき理解者として、本校の教育活動にさらなるご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに卒業生の皆さん一人一人が、これからも自分自身をプロデュースし続け、成長し続けることを祈念して、本日の式辞といたします。



答辞

冬の寒さが和らぎ、日々まわりの景色が春色に染まっていく季節となりました。初めに、私たち卒業生のために、今日このような心温まる卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。また、私たちのためにご臨席くださいましたご来賓・保護者の皆様、誠にありがとうございます。卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。

私たち五十九名は今、卒業の時を迎えます。

この濁川中学校で過ごした三年間は、驚きと発見であふれていました。

三年前、私たちは大きな不安と期待を胸に、新品の制服を着てこの濁川中学校に入学しました。教科ごとに担当の先生が変わることや、定期テストに向けて自分で目標と計画を立てて勉強しなくてはいけないこと、自転車で学校へ登下校することなど、今では当たり前の日常であることも、当時は少くも大人に近づけたような気がしてうれしかったことを覚えています。初めてのことはばかりの新しい学校生活にたくさん戸惑いながらも、先輩方の、時にやさしく、時に厳しいご指導のおかげで充実した日々を過ごすことができました。

二年生に進級し、思い出に残っている行事は職場体験学習です。実際に二日間、大人の人たちといっしょに仕事を体験させていただき、働くことの大変さ、そして、大切さを知ることができました。コロナ禍ではありましたが、快く迎えてくださった企業や事業所、施設の方々のおかげで、私たちは自分の将来について考えることができました。また、二年生前期には部活動、後期には、生徒会本部や専門委員会を先輩から引継ぎました。生徒会活動や部活動では、リーダーシップを発揮し、活動をけん引していく立場となり、これまで先輩方が育み、引き継いできたものを自分たちもさらに発展させ、後輩へ繋げていかななくてはならないという大きな責任を感じました。

そして一年前、最上級生という大きな責任とともに、中学校生活最後の年をスタートしました。

まず、四月に私たちが最も楽しみにしていた行事、修学旅行がありました。今年から関西方面への修学旅行が再開となり、神戸や大阪、京都などを訪れました。京都で歴史的な建造物を見学したことや、道頓堀の街を友達と散策したこと、移動中のバスの中で他愛のない話で盛り上がったことなど、修学旅行は最高の思い出となりました。

七月、体育祭の季節がやってきました。

体育祭の軍が決定し、赤軍・青軍とも、応援や小道具づくりなどをやる日々が続きました。

体育祭の準備を進める中で、沖にうまくいかないこともありましたが、今年の体育祭では、猛暑により例年通りの準備活動ができず、急な変更がたくさんありました。しかし、その都度、私たちは先生方と話し合い、安全を第一に準備を勧めました。臨機応変に対応してくれた全校のみなさん、ありがとうございました。

また、今年度の体育祭は多くの競技を一新し、生徒会スローガン「Making a New濁中」の通り新しい体育祭を作ることができました。当日はそれまで準備してきたものを出し切り、両軍全力で競い合い、最高の思い出となりました。

そして、十月の合唱祭。最高の合唱にするために朝や昼休み、放課後など、たくさんの時間を使って練習に励みました。練習後には各パートで自分たちの課題について話し合いをし、当日はどのクラスも練習以上の歌声を響かせることができ、頑張ってきてよかったと実感することができました。

心から楽しんだ修学旅行、クラスが一丸となって競い合った体育祭、心をつなげて歌った合唱祭など、一つ一つの行事が終わるごとに楽しい思い出が増えていきました。

こうした行事が中学校生活最高の思い出となったのも、一、二年生の皆さんの協力のおかげです。本当にありがとうございました。

来年度、一、二年生の皆さんは新入生を迎え入れ、また一つ先輩となります。先輩として諸活動に取り組んでいくことは時には難しく、つらくなることもあるかもしれませんが、そんなときこそ仲間を信じ、互いに支えあって頑張ってください。

最後になりましたが、これまで私たちを温かく見守ってくださった地域の皆様、ともに喜び、時に厳しく叱って私たちを導いてくれた先生方、そしてこれまで育ててくださった保護者の皆様、本当に今までありがとうございました。この最高の仲間と出会い、この最高の仲間とともに卒業できることをとてもうれしく思います。

今日から、私たちはそれぞれが別々の道を歩み始めます。今後、大きな壁にぶつかったとしても、この濁川中学校で得た多くの学びや経験を人生の糧として乗り越えていきます。三年間本当にありがとうございました。今後の濁川中学校の益々の発展と、今までお世話になった方々への感謝の気持ちを結びに、答辞とさせていただきます。

送辞

まだ肌寒い日が続きますが、桃の節句も過ぎ、いよいよ春到来のこの良き日。三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。先輩方は部活や委員会などで、中心となって、学校を引っ張ってきてくださいました。わからないことがあったとき、優しく教えてくださった先輩方。そんな先輩は私たち後輩の憧れでした。

部活では、部活を初めて間もない私たちに、優しく、時には厳しく、技術や部活のルールなどを教えてくださり、とても勉強になりました。先輩方から教えていただいたことは、今後に活かし、そして後輩にも引き継いでいきます。

体育祭では、軍団長や応援団長を中心に活動をリードしてくださいました。ダンスは赤軍、青軍どちらもとてもカッコいいダンスでした。難しく覚えるのが大変でしたが、先輩たちの優しく、わかりやすい教え方のおかげで、体育祭本番の時には、完璧に踊ることができました。先輩方のリーグシップを見て、自分も先輩方のような頼れる人になりたいなと思いました。

合唱祭では、練習の時から先輩たちの綺麗な歌声が上から聞こえてきて、先輩方の合唱祭にかける想いが伝わってきました。本番では、練習のときに感じた以上の、迫力ある歌声を披露してくださいました。また下級生とは違った魅力や凄みが歌声から伝わってきました。みなさんの歌った曲全てが最優秀賞に感じました。

委員会活動では一年生、二年生を支えながら委員会活動を進めてくださいました。わからないことがあったら教えてくれたり、ペアになって一緒に活動を進めてくださったりしたので、私たちは安心して活動することができました。これから私たち二年生は先輩方の計画的な活動とスムーズな進行を見習い、頑張っていきます。

生徒会事務局のみなさんは全校生徒のために企画や新たな行事を考えてくださいました。球技大会や全校レクなど、全校生徒が楽しめるよう、心を砕いてくださいました。おかげでとても楽しい一年になりました。生徒会の皆さんが全校生徒が過ごしやすいような学校になるように活動をしてくださったので、全校生徒が楽しい学校生活を送ることができました。

先輩方は部活や委員会、行事など様々な場面で活躍し、学校を盛り上げてくださいました。私たち一、二年生が楽しい学校生活を送れたのは先輩方が学校のために動いてくれたおかげです。先輩たちがいなくなってからも先輩方のように楽しく過ごしやすい学校を作るため頑張っていきます。今まで濁川中学校を盛り立ててくださり、ありがとうございました。高校でも先輩方のご活躍を願っています。

後期終業式

成長した1年を振り返りました。

今年度ががんばったこと来年度の抱負

私は、今年頑張ったことが二つあります。一つは、体育祭で作戦係として、競技の作戦を立てたことです。これまでは、あまりこういった役職に立候補することがなかったのですが、二年生になり、クラスのために何かできることはないかと考え、作戦係に立候補しました。初めての経験なので、周りに迷惑をたくさんかけてしまいましたが、その度と同じ二年生の作戦係の人達と協力して、無事に仕事を終わらせることができました。私は、全校綱引きの並び順などは事前にタブレットでクラスの人達に配り、自分の位置を早めに確認してもらえるように資料作りに力を入れました。クラスの皆さんが指示をしっかりと聞いてくれたので、やってよかったと思いました。

もう一つは、勉強です。私は二年生の前期から、定期テストなどで成績を伸ばすことが、一年生の時ほどできなくなってしまいました。二年生の後期からは、日々の授業の復習、定期テストでは、今まで以上にワークやプリントを繰り返しました。これにより、三回目の定期テストでは、満足できる結果を出せました。来年には、受験も控えています。来年は、受験勉強を確実にこなし、授業への理解度を高めたいと考えています。また、今年の勉強での反省点を振り返り、日々努力を惜しまないことを目標に、さらに成長できるように頑張ります。

後期の反省点と新年度の抱負

僕が後期、特に頑張ったことは数学です。

授業中に学習内容は理解していましたが、その後の復習を怠ったため、テストでよく計算間違いをしたり、習ったことを忘れていたりしていました。そこで、ワークを繰り返して学習することにしました。毎日少しでもやるようにしました。その結果、第三回定期テストで十点以上成績を伸ばすことができました。数学と一緒に他の教科も家庭学習をするようになったので、全体の合計点が上がりました。僕は後期に家庭学習をする習慣が身についたので、来年度も続けていきたいです。来年度は、国語の文法や物語の読み取りに力を入れていきたいです。

行事で印象に残っているのは、ウェルカム参観日です。僕はボーリングのブースを担当しました。ボーリングのピンをペットボトルで作ったのですが、うまく倒れるように中に入れる水の量を調節しました。当日小学生が楽しんでくれるか心配でしたが、たくさんの小学生が来てくれて楽しんでくれました。楽しんでいる小学生の顔を見てみると、自分も嬉しくなりました。僕は小学生と触れ合う経験を通して、相手と同じ立場に立って話をすると、コミュニケーションが上手くいくんだということが分かりました。来年もたくさんの人を楽しませる企画をやりたいです。

いよいよ来月から二年生になります。来年は学習はもちろんですが、新しいクラスでの人間関係も大切にしたいです。色々な人と関わって、今よりもたくさんの役割に立候補したいです。

春風さわやかごみ拾い 16名が参加しました

17日(日)濁川地区青少年育成協議会主催のボランティアに、生徒会の呼びかけで16名が参加しました。地域の方と共に、校区内のごみをたくさん拾いました。